

すさみ町避難ビル



建設内容

所在地	すさみ町周参見4027
構造	鉄筋コンクリート3階建
施設規模	屋上面積150㎡ 高さ11.4m
収容人数	約300人(屋上)
事業費	273,807千円
完成日	平成28年9月末

避難所とは

津波や台風といった災害に襲われたときに、それらの災害から身を守り、帰宅が困難な場合はそこで生活を行うことができる施設や場所を指します。

一定期間避難生活ができるよう物資もそろえられており、屋内なので雨風などの心配もないように考えられています。

建設までの経緯

平成25年3月、和歌山県による南海トラフ巨大地震の津波想定が公表されました。この想定によると、この場所では津波の基準水位※は4.7mとなり、高さ30cmの津波が11分、1mの津波が23分で到達するとされています。

この発表を受けまして、昨年に駅前避難タワーを建設し、引き続き施設の老朽化が進んでいた旧公民館を取り壊し、跡地に新たな避難先として、すさみ町避難ビルを建築することとなりました。

※基準水位とは、津波が建物などにあたって跳ね上がった際に届く最高の高さのことです。

すさみ町避難ビルの概要



すさみ町避難ビルの屋上は、津波が来た際の避難スペースになっており、最大300人が避難することができます。

地上から11.4mに位置しており、南海トラフ巨大地震で想定される、この場所の基準水位である4.7mよりも高くなっています。

すさみ町避難ビルの内部には、食料等の備蓄倉庫のほか、長期の避難に備えて横にもなれる畳敷きの部屋や炊事スペースも用意されています。これらの部屋は災害のない時は展示スペースや研修室等としても利用されます。

